ここが変わった！これでわかる!!

# やさしい三法令

其の十五

幼稚園教育要領

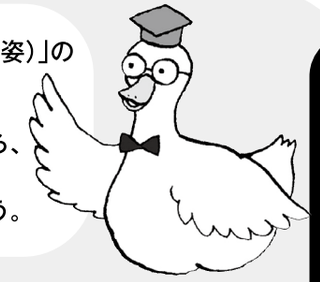
保育所保育指針

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

## シリーズ 極める！10の姿

# 協同性

監修 無藤 隆（白梅学園大学大学院特任教授）



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の協同性。

ここでは、指針・要領の記載を読み解きながら、5歳児後半で見られる具体的な姿、そして、その姿につながる5歳までの育ちを見てみよう。

文言CHECK!

**協同性**

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章第1－3（3）ウより
（保育所保育指針、幼稚園教育要領にも同様の記載あり）

## この姿のポイント

### ◎友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有する

保育者との関わりの中で思いを伝えあう体験をしてきた子どもたちは、やがて友達と関わることの面白さを知るようになる。そして5歳児くらいになると、相手の考えに耳を傾け、互いの良さを認め合うようになってくる。こうして、互いの思いを共有できるようになり、「友達と一緒にする」ことが楽しくなるんじゃ。保育者は子ども同士が関わり合えるよう、さりげなく橋渡しができるといいね。

### ◎共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる

5歳児になると、遊びの中で共通の目的を見つけて、それに向けて協力しあう姿が見られるようになる。大事なのは、目的を外から示されるのではなく、子どもたちが遊びを深める中で見出していくこと。自ら定めた目的だからこそ力を合わせ、試行錯誤し、達成したときの喜びも大きくなる。保育者は、子どもたちが試行錯誤する中で、状況に応じてヒントをそっと提供しよう。

みんなで天敵を追い払ったとき、充実感あったなぁ……。

解説

## 5歳児後半に見られる姿

自分の思いを友達に伝えたり、自分とは異なる友達の意見に耳を傾けたりして、考えを共有しようとする。

互いの良さを認め合いながら、共通の目的に向かって協力したり、試行錯誤したりする。

共通の目的に向かって、友達と一緒に最後までやり遂げ、うまくいったことを一緒に喜び合う。

## この姿につながる5歳までの育ち

**1歳児**

保育者が応答的に関わったり、1対1で遊んだりするうちに安心感が生まれ、興味や活動を広げていく。

**2歳児**

周囲の子どもに関心をもち、同じことをしようとしたり、思いが伝わらず時にぶつかりあったりする。

**3歳児**

友達と遊ぶことが楽しくなり、気の合う友達と「こんなことを一緒にしたい」という目的意識を持つようになる。

イラスト 伊藤ハムスター